

## GNOMES



文章をまとめようとか、何か書こうと思うと、もう他の人の文章が読めなくなります。テレビもラジオもダメで、ひたすら自分の中で集中してしっかり見つめないで、小学生の作文なみにただあったことだけを並べた文章で終わってしまいます。毎月子供達の作文集の後ろにえらそうなことを書いているので、それでは困るのです。などとうじうじ言いながらこの暑さの底を這い回っております。ノームソが湯豆腐になりそうです。毎日、シャツにジーンズ、裸足にサンダルで自転車をふらふらこぎながらやっています。そんな中でも営業の人達はスーツを着てやってくるのですね。私に営業の才能はないけれども才能がなくて良かったと

つくづく思います。

街も暑さのせいか狂いかけた人がうようよ歩き回っていて危なくてしかたがない。目があう人や車を怒鳴り散らしながら歩く人、ぬいぐるみの帽子をかぶって目がすわったままだ歩く人。赤信号を集団で無視して渡りながらひかれそうになってどなりちらす女子高生。道ばたでうずくまる女。笑いながら車を急停車させながら道をわたる男。うなだれたままじっとたたずみ続ける男。表参道や、渋谷で一日中遊び続けている若い男女の群。そろそろ東京も芯から狂い始めたかも知れない。動物の世界も個体数が増えすぎると集団ヒステリー状態になって自然淘汰が始まるが、人間だって動物ですから例外ではないのでしょう。

科学はどんどん進歩していても、生身の人間はどうがんばっても100mを5秒で走れるものではなく。私の小さかった時に家にあった電気製品は真空管式ラジオと電球とアイロンだけだった。下駄や裸足で走り回り近所のばあさん達はたすき掛けで洗い張りの板を並べていた。そこから今までの目くらむような進化によく追いついていっていると我ながら感心します。でも限度がどこかにある。

逃げるばかりでも仕方がないが、これは本気になって普通に生きられる場所を探し始めないといけないのではないかな。そう考え初めています。会社と言うのはネット上の仮想空間に残し、生身の身体は森のなかにあるのがいいのかも知れない。数は力ではなく、一人一人の輝きが意味を持ち、数百年も生きる糧を稼ぐより、定まった期間を快く過ごすために働けばいい。あと50年後に誰が生きているだろうか、あと10年後に私はまだ動いているだろうか。このところ、ふっとおきるめまいや心臓の痛みの中でもう少し上手に命を使っていこうと思っています。暑い夏を元気にのりこえたいものです。GNOMES

ノームはひまになりました。友人達の来訪はいつでも歓迎します。

携帯は解約しました。連絡はメールか普通の電話でお願いします。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com